

美術館 への いざない

美術館、行ったことありますか？
京都は寺社仏閣のイメージが強い
ですが、実は美術館が多数存在す
るエリアでもあります。今回は京
都の美術館の一部を（左京区のも
のみ）まとめてみました。大学
生にお得な割引や、美術の見方な
どの豆知識と共に楽しみくださ
い。（だいおう）

京都市京セラ美術館

<概要> 2020年に大規模な改修工事を経てリニューアルオープンした、元「京都市美術館」。白くて今っぽいホール、落ち着いたある日本庭園、など新旧・和洋が共存する建物は必見です（ホールや日本庭園などは無料エリア）。

<傾向> 常設展示は明治以降の日本画が中心になっています。改修後の特別展は現代アートのものが比較的多いものの、エジプト美術からドラえもんまで様々なテーマで開催されています。

<特色> 現代アートに力を入れています。現代アート展示用の施設があること、3か月おきに若い作家の作品を無料で楽しめる展覧会が開催されること、などは他の美術館では見られない取り組み。現代アートには写真映える作品など知識ではなく視覚に訴えるものも多く、普段美術に興味がない人でも気軽に楽しめるかもしれません。

<料金>（常設展）

京都市内在住者：520円

市外在住者：730円

キャンパス文化パートナーズ：100円

<開館時間> 10:00～18:00（入場は17:30まで）

<休館日> 月曜日（祝日の場合は開館）

<アクセス> 地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約8分/
市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ



京都府立陶板名画の庭

<概要> 京都府立植物園すぐ横の屋外美術館。誰もが知る名画の精巧なレプリカが展示されています。

<特色> 常設展示のみで、絵画の色などをできるだけ保ったまま陶板に転写した「陶板絵画」が展示の目玉。モネの《睡蓮》、レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》(右下の画像)など一度は耳にしたことがある名画の数々が再現されています。約14m×13mもあるミケランジェロの《最後の審判》などほぼすべての作品が原寸大で再現されており、かつギリギリまで近づけるため、本物を見るのとはまた違う楽しみ方ができる美術館です。ちなみに植物園に近いので、虫除けは必須。

<料金> (名画の庭のみ) 一般 100円
(共通券) 一般 250円 高校生 200円
※共通券 = 植物園と名画の庭の両方に入園できる券

<開館時間> 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

<休館日> 12月28日~1月4日

<アクセス> 地下鉄「北山駅」東側/市バス「北山駅前」より徒歩約5分



🎨 美術館の楽しみ方 🎨

美術館の楽しみ方に正解はありません！……が、楽しみ方の例を幾つか挙げてみようと思います。

<知識で読みとく>

作者の人生、作品がつくられた時代、特定のモノに込められた意味など、いわゆる「教養」をもって作品を鑑賞するという方法。レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》など、宗教画は聖書などの教典に沿った作品がほとんどで、事前に知識があれば何が描かれているのか分かって面白い場合が多いです。

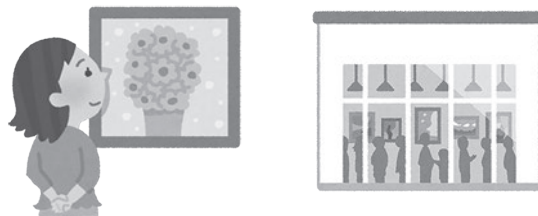
<感性に委ねる>

作品を見て自分がどう感じたか、何を考えたかなどを重視する鑑賞方法。題名や作家などの先入観を持たずに作品を見ることで、予想だにできなかったような見方が出来たり、作品と自分のリンクする部分を見つけることが出来たりして鑑賞が楽しくなってきます。

<美術「館」を楽しむ>

美術館は作品を展示するだけのスペースではありません。建物自体が魅力的だったり、カフェが併設されていたり、ショップが充実していたり、と作品以外の部分でも楽しめる館が多くあります。

筆者のおすすめ鑑賞法は展示を2周することです。1周目は軽く見てまわるだけにして2周目は気になった作品だけをじっくり見ると、集中力が途切れずに好きな作品を鑑賞できますよ。



京都国立近代美術館

<概要> 50年の歴史を持つ、関西初の近代美術館。伝統産業や著名な芸術家の作品を含むコレクションとファッションなど目新しい展覧会のバランスがちょうどいい、「誰でも楽しめる」美術館です。

<傾向> 常設展示では日本画から油絵、写真に工芸品と様々なジャンルを取り扱っています。企画展もゴッホなどの著名な近代画家の展示から、ポスターやファッションといったメジャーでない展示まで幅広く行われています。

<特色> 京都の昔ながらの産業である陶芸や染織を含む「工芸」、そして写真の収集に力を入れています。常設展は展示作品数が多く、年5・6回の入れ替えがあるので特別展でなくとも楽しめるのが最大の魅力。加えて夜間割引の実施・格安な大学生料金など、お財布に優しい美術館でもあります。特に大学生と一般だと料金にかなりの差があるので、学生の内に行って損はありません。

<料金> (常設展) 一般：430円 大学生：130円
キャンパスメンバーズ：無料、特別展に通常より安い団体料金で入場可能

<開館時間> 通常9:30~17:00 (入場は16:30まで)
/金、土のみ9:30~20:00 (入館は19:30まで)

<休館日> 月曜日 (祝日の場合は開館)

<アクセス> 地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩約10分/市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ



🎨 企画展と常設展 🎨

展覧会には、大きく分けて「企画展 (特別展)」と「常設展 (コレクション展)」の2種類があります。企画展は、「テーマに沿って作品を様々な場所から集めた、期間限定の展覧会」です。海外でしか鑑賞できない作品が来日したり、同じ作家の作品が1つの館に集まったり。メディアに取り上げられたり観客が多かったりするような、一般的にイメージされている「展覧会」は大体こちらですね。

一方常設展は、「その美術館自体が所蔵する作品を集めた、(基本は) 期間限定でない展覧会」です。各美術館の特色が表れるのはこちらの展覧会。あまり知られていない作家の掘り出し物的な作品と出会えるなど、興味の幅を広げてくれる展示を鑑賞できます。

常設展はほぼ全ての美術館で行われており、企画展のチケットがあれば入場できることが多いです。お目当ての展覧会に行った後はぜひ、常設展にも立ち寄りみてください。

泉屋博古館

<概要> 東山の自然を活かした庭にモダンな建物が調和している、これぞ京都！な美術館。常設展示されている住友家のコレクションは量、質ともに高いレベルを誇っています。

<傾向> 常設展は後述の青銅器館の展示。企画展は陶器などの工芸品や日本画が中心ですが、伝統を新たな切り口で捉える展覧会は見ごたえがあります。

<特色> 中国古代青銅器の展示のために作られた「青銅器館」という世界でも珍しい建物があります。教科書でしか見たことがないような青銅器ですが、近くで見ると意外と迫力があるものもあれば、可愛い(?)のものもありと……新たな発見があるかもしれません。

<料金> (入館料) 一般：800円 高大生：600円
※入館料のみで特別展と常設展の両方が鑑賞可能

<開館時間> 10:00～17:00 (入場は16:30まで)

<休館日> 月曜日 (祝日の場合は開館、臨時休館あり)

<アクセス> 地下鉄東西線「蹴上駅」より徒歩約20分/
市バス「宮ノ前町」下車すぐ



大学生向けの優待

<キャンパスメンバーズ>

京都大学の学生が、特定の博物館や美術館において、常設展の入場料無料や企画展の割引を受けられる制度です。京都・奈良国立博物館、京都国立近代美術館などが対象となっており、学生証の提示により優待が受けられます。

<京都市キャンパス文化パートナーズ>

京都の学生限定で、文化施設において入場料の割引などの優待を受けられる制度です。京セラ美術館や二条城、京都市動物園など50以上の施設が対象となっています。「KYO-DENT (キョーデント)」というアプリへの登録後、アプリの会員証と学生証の提示により優待が受けられます。※学部生のみ

いかがでしたか？美術館と美術に関する様々な知識を紹介しました。今回紹介できたのはほんの一部ですが、古代中国美術から現代アートまで、左京区の美術館はバラエティに富んでいるのでどんな人にも楽しんでもらえると思います。この記事を通じて美術の世界に少しでも興味を持っていただければ嬉しいです！